

NJ 素流協 News

令和2年7月10日
第186号

令和2年7月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

表 令和2年度地区別組合員会議開催状況

開催日	開催地	出席組合員数	出席者数
6/16	十和田市	14	20
6/19	大崎市	8	10
6/23	八幡平市	15	17
6/24	住田町	14	25
6/26	久慈市	12	12
計		63	84

※複数会場出席の組合員があるため延べ数

NJ素流協は6月16日から同26日まで5回にわたり、令和2年度地区別組合員会議を開催した(各会場の出席者数は別表のとおり)。16日の十和田会場の開会にあたり、鈴木理事が次のとおり挨拶した。

「組合員の皆様には本来なら総会においていただければよかったが、新型コロナウイルス対策のためご出席いただけず、誠に申し訳なかった。

昨年度は原木取扱量52万㎡の計画

ノースジャパン素流協 令和2年度地区別組合員会議開催

を立てたが、直送分で55万㎡、国有林の委託販売を含めると総計で57万㎡となり、皆様のご協力により大変良い成果をあげることができた。加えて各種研修会、先進地視察、講演会等に多数ご参加いただき、少しでも皆様のお役に立てたのではないかと考えている。ということ、今年度も順調にいくかと思われたが、ご承知のとおり新型コロナウイルスの影響により、残念ながら昨年度と同様のスタートを切ることができなかった。加えて緊急事態宣言が出されたことで県をまたぐことができなくなり、複数県をまたぐノースジャパン素流協としては、研修会等もこれが収まってからということ、未だ皆さまの期待に答えられていない状況だ。そろそろ自粛も明けてくると思われるので、それに合わせてやっていきたくと考えている。

今年度も協同組合として組合員の

皆様のご要望にできるだけお応えできるように職員一同頑張つて参りたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

続いて、通常総会では行うことができなかった組合員への感謝状贈呈を行い、議事に移った。会議の主な内容は次のとおり。

1. 話題提供／鈴木理事長講話

「知つていて損はない話」

鈴木理事長が話題提供として、今年度のコロナ禍が林業・木材産業に及ぼしている影響と今後の見通し、さらにその中でも需要の伸びが期待される木材品目等について分析を行った。住宅等建築業界が3～5月に営業停止となったことが、6～7月に川上側へ大きく影響している。一部工場の減産分の余剰原木が別の工場へ集中したり、特にスギ原木で需給バランスが崩れたことで、荷余りや価格低下を引き起こしていると説明した。

この他全国の樹種別資源量や、高性能林業機械の保有状況等の現状を分析した。

2. 令和2年度事業計画

当組合は次の9つの課題を今年度のテーマとし事業展開を進める。

- ① 合板・LVLの国産材化、② 土台材の国産材化、③ 集成材の国産材利用、④ 鉄骨・RC造に代わる国産材・木造建築物の普及、⑤ 広葉樹の用材・原料材の適切な分別と、国産広葉樹材利用、⑥ 短コロから小径木・薪材・新用途チップ・木質バイオマス用材等の利用で、全幹利用による山元価格の上昇、⑦ 意欲と能力のある林業経営体の認定に協力し、林業事業体の体質強化を促進、⑧ 青年部会の活動充実と後継者育成、⑨ 盛岡宣言の実現と再造林推進の取組み加速

3. 令和2年度主要事業

ア. 共同販売事業と木材需給動向

新型コロナウイルス感染拡大による建設事業縮小等の影響を受け、合板、集成材、製材各工場とも減産を余儀なくされたり、原木供給過多となっており、多くが受入制限を行っている。木質バイオマス発電用原木の受入は通常通り順調である。用材の需要は、7月はさらに厳しくなる



地区別組合員会議(6/24住田町会場)の様子

ことが予想されており、8月以降の状況の回復に期待をしている。

当組合では、写真送付による相談サービス「フォトソリューション」を行っている。売り先など取扱いの分からない原木を写真撮影して営業担当へ送ると、品質や樹種に応じて有利な販売先等の相談に応じる。

イ. 森林再生に係る事業

岩手県森林再生基金事業の令和元年度協力金・寄附金総額は3230万円と、予算を上回ったものの、再造林助成金の交付実績は計画の6割程度にとどまった。平成30年1月に青森県で設立された「青い森づくり

推進機構」に対し、令和2年度から当組合も協力金拠出を開始した。同機構の令和元年度助成実績は、再造林面積約116ha、助成金額約828万円であった。令和3年度からは、再造林助成箇所に対して下刈助成も開始する。

当組合独自の再造林促進奨励事業の助成金交付実績については、6組合員、対象面積約5ha、交付金額30万円であった。宮城県名取市台林国有利の「ノースジャパン100年復興の森」における海岸防災林再生活動についても継続して実施する。

ウ. 技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

・いわて林業アカデミー就業体験Ⅱ
来春研修生を採用する考えがあり、就業体験研修の受入れに協力いただける事業体を随時募集中。なお令和3年度から青森県「青い森林業アカデミー」が開講の運びとなり、本年10月から第一期研修生の募集が始まる。

・林業用種子(カラマツ)の確保協力Ⅱ平成27年度からカラマツ球果採

取と種子の提供に取り組んでいる。6月中旬頃から球果がなり始めるので、情報提供をお願いしたい。

・原木トラック運送効率化Ⅱ原木トラック運送協議会の構成員は青森県2社、秋田県3社、岩手県9社、宮城県6社、山形県2社の計22社となった。林野庁や東北森林管理局への陳情・要望活動等が実り、令和2年4月1日付けで林道規程の改正が実現した。

・皆伐施業ガイドラインⅡ当組合は環境や伐採後の再造林に配慮した施業を行うためのガイドラインを平成28年策定した。翌年から全国の策定団体が持ち回りで開催している「ガイドラインサミット」を、令和元年度は東北地域で初めて盛岡市で開催した。「盛岡宣言」を発表し、ガイドラインの周知と認証制度制定への取組を進めていくことを表明した。

・意欲と能力のある林業事業体の認定状況Ⅱ東北各県で公募と認定が進んでいる。新しい森林経営管理制度における森林管理実施のほか、国有林立木の採取権設定等、国の林業施

策において認定事業者が中心的な役割を担っていくことになる。

・ 下刈作業軽労化実証支援事業Ⅱ除草剤散布による下刈作業の軽労化を普及するため、今年度は技術指導、資器材提供・貸与のほか、労務費の助成を行う。

・ 鳥獣害拡大防止のためのシカ等の出没情報の収集Ⅱ(罫)マップクエスト、愛知県森林・林業技術センター、(国研)森林総合研究所が共同開発した



鈴木理事長から話題提供

「シカ情報マップ」を用いて、造林地等での目撃情報を収集する。

・ 合法木材及びバイオマス材の適正供給Ⅱ合法木材の取扱証明に関し、

事業者の認定、日常の取引における合法性根拠書類の整備等について継続的な指導を行っていく。

【主な質疑応答】

Q..地元では昔から優良材施業を行っており、良質な材が出ている。山主の要望もあり少しでも高値で納入したい。

A..銘木取扱業者が新型コロナウイルスの影響で買付ができず在庫が不足しているとのことで、80年生、径級40cm超の銘木の需要がある。そういったものがあれば声掛けいただきたい。現在受入制限している一般製材でも、この状況が回復すれば有利な条件の所に販売させていただく。

Q..今年から経営計画の補助事業をやっている。収穫調査・作業道路線踏査で使えるよう、ドローンを使った講習会等をやってほしい。

A..開催を検討する。
Q..工場の受入状況や納入数量等の情報をいち早くやり取りするため、スマホアプリを導入できないか。

A..市販のアプリ等で利用しやすいものの導入を検討したい。

トピックス

組合員受賞者報告
山中義一氏

公益社団法人大日本山林会が主催する「令和2年度第59回全国林業経営推奨行事」において、当組合員である山中義一氏(山中林業代表)が

農林水産大臣賞を受賞しました。これは森林の適正な管理と林業の技術・経営の改善に努め、森林の多面的機能の発揮と、林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林管理経営体を表彰するもので、毎年度道府県より推薦された事業者の中から、学識経験者等の審査を経て、農林水産大臣賞、林野庁長官賞、大日本山林会長賞を決定するものです。岩手県推薦の同氏は、素材生産請負から所有山林の整備主体の経営にシフトしつつ、素材生産では伐採後の再造林を見据えた地拵えを行っているほか、所有山林の整備では松くい虫被害対策としてアカマツ人工林からスギ、カラマツへの樹種転換を推進、さら

に大径材の搬出間伐等、適切かつ積極的な森林管理を行っています。また後継者の育成に取り組んでいることも高く評価されての受賞となりました。誠にありがとうございます。

公共建築物の早期発注を
岩手県に要請

新型コロナウイルス感染の拡大は多方面に甚大な影響を与えているが、建築需要も例外ではない。そのため、このほど当組合では岩手県森林・林業会議を通じて、岩手県に対して早急な需要喚起を要請した。その概要は次の通り。

◆県・市町村等の地方公共団体が整備する公共の用又は公用に供する建築物、及び国又は地方公共団体以外の者が整備する学校、老人ホーム、病院、体育館、図書館、車両の停車場、高速道路の休憩所等の木造化・木質化を進めるとともに、早期発注をお願いします

◆道路、河川、港湾、農業基盤整備、治山等、公共土木工事への木材利用の促進と早期発注も併せてお願

令和2年度第1回国有 林材供給調整検討委員 会の開催結果

岩手県森林・林業会議は7月9日に、県議会と農林水産部に対して、森林整備予算の確保と合わせて要請行動を行った。

林野庁東北森林管理局で6月11日に開催された令和2年度第1回国有林材供給調整検討委員会に当組合から高橋常務理事が出席した。

その結果、「管内の原木は、木質バイオマス用の引き合いはあるものの、合板工場をはじめとする大型木材加工施設では原木の入荷を制限しており、当面、この状況は続く見通しである。また各工場の原木土場は飽和状態であり、原木の消費と供給のバランスが不均衡な状態である。以上の状況を踏まえ、国有林には、きめ細かな供給調整と市況に応じた機動的な対策を講じることとされたい。合わせて需要回復時の安定供給についても配慮が必要である」との結論

をとりまとめ公表した。

なお本誌第185号で既報のとおり、4月に書面開催された臨時の同委員会でも、「国有林立木販売の搬出期間の延長により、国有林材の調整を図る必要がある」との結論が出されている。

青森県に東北地域4校 目の林業学校が来年4 月に開校

林業大学校や林業アカデミーが各地で設立されており、その数は平成31年4月現在で全国に18校となっています(林野庁調べ)。それ以降に開校、または開校予定の林業学校が4校あり、そのうち東北地域では、令和3年4月青森県に「青い森林業アカデミー」が開校する予定です。

東北地域には秋田林業大学校(平成27年開校)、山形県立農林大学校(同28年)、いわて林業アカデミー(同29年)があり、青い森林業アカデミーが開校すれば4校目となります。同アカデミーは1年制で、平内町にある県産業技術センター林業研究所に

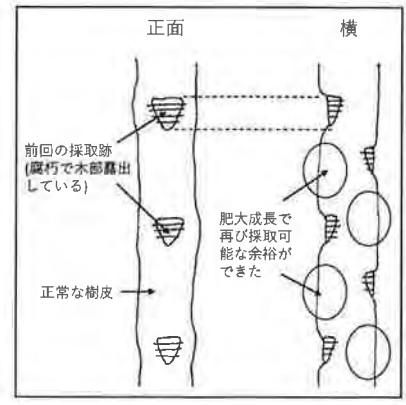
拠点を置き、県内の林業事業体等に就業を希望する高等学校卒業または同等程度の者(原則として18歳以上43歳以下)10人程度を推薦と小論文及び面接で選考することになっています。

お知らせ

ウルシの木の所在に 関する情報提供のお願い

近年、文化財補修等で国産漆の需要が伸びていますが、生産量はまだまだ不足している状況です。これまでの調査研究で、一度漆掻きを行った個体でも何年か間を置けば再度漆を採取できることが分かっており、ウルシの木を再利用する道が開けてきました(図を参照)。

文化財修復などで知られる(株)小西美術工藝社の二戸支社様からウルシの所在情報の提供要請がありましたので、漆を採取した後に伐採されずに残っていたり、植栽後一度も利用されていないウルシ木の所在をご存じであればお知らせください。



(図) ウルシの木の再利用

生産が盛んな岩手県北地域であれば通勤できるので40本から、遠方でも200本以上のまとめりがあれば長期滞在しながら作業できるとのことです。

なお、お寄せいただいた情報は当組合が(株)小西美術工藝社二戸支社様に取り次ぎ、その後の連絡等は同社が直接行います。

再造林促進奨励事業の 要領変更

当組合の再造林促進奨励事業は、組合員が人工林の伐採箇所を植栽した場合に、その経費の一部を助成する事業で、対象地は、北海道・青森県・秋田県・岩手県・宮城県・山形県となっております。このほど事業の

要領の一部を次のように変更したの
で、積極的なご利用をお願いします。

1. 再造林基金事業が開始されてい
る道県は対象外としていましたが、
それを変更し、同事業が実施され
ている道県であっても、助成対象
外の植栽地を対象とします。

2. 植栽樹種はこれまでスギ・ヒノ
キ・カラマツ・アカマツでしたが、
これに広葉樹を追加します。
3. 低密度植栽の要件を撤廃しまし
た。

なお、詳しくは経営企画課の野田
までお問い合わせください。

岩手県森林再生基金事業 の交付要領の改正

本事業ではこれまで、森林経営計
画を作成済みか作成見込みの林地に、
森林整備補助事業により再造林した
場合、①低密度植栽、②コンテナ苗
使用、③一貫作業のいずれかを実施
していることを助成条件として、森
林所有者の自己負担の範囲内で上限
を10万円/haとして助成を行うこと
としてきました。今回、本年6月18

日の要領改正により、上記3つの条
件に一つも適合しない再造林であつ
ても、毎年の予算の範囲内に応じて
5万円/haを上限に助成できるよう
になりました。

カラマツ球果の結実情報をお寄せください！

カラマツ種子の不足が続きカラマツ苗木が十分に確保で
きていません。再造林の推進のため、当組合ではカラマツ
種子の確保に協力する取組を行っています。

緑色の球果がついているカラマツ樹の所在地の情報をお
持ちの方は、経営企画課・野田までお知らせください。

肝心カナメの書類作成 2

―代替わりしたばかりの若社長率い
る〇〇林業は、この春N J素流協に

加入しました。1通のメールがきつ
かけて事業者認定研修の内容を勉強
した新人のTくんは、社長から伐採
届を出すという新たな仕事を指示さ
れました―

T「△さんの山の伐採届か。そも
そも伐採届って何だ？N J素流協の
資料にも出てきたっけ？とりあえず
検索してみるか。」さすが若者のT
くん、早速事務所のPCの検索窓に
「伐採届」と入力しました。

Tくんはいくつか開いたウェブペー
ジの記述を丁寧に確認し、時々何や
らノートにメモしています。何を書
いているかというと…

- ◆伐採届の正式名称は「伐採及び
伐採後の造林の届出書」という
- ◆自分が所有する山であっても、
また面積や本数に関わらず、立木
を伐採するときには森林法に基づ
き届出が必要

◆森林所有者と立木伐採者が連名
で、実際に伐採を始める90〜30日
前までに、森林のある市町村に届
出書を提出する

◆届出には、登記事項証明書や住

民票など届出者を証明する書類や、
伐採区域の図面の添付が必要
◆ただし、保安林や、1ha以上の
開発を伴う伐採の場合は、別の届
出となる

◆また、森林経営計画に基づく伐
採の場合は、事前の届出は不要
鉛筆を置いたTくんは、あるペー
ジで公開されていた伐採届の様式と
記入例を印刷して、自分が書いたメ
モと交互に眺めながら考え始めまし
た。

T「そうか、自分の山でも勝手に木
を伐っちゃ駄目なんだ…。社長は伐
採届って言うていたけど、別の届出
に当てはまらないかをまず確認する
か。山の所有者は△さんだけど、伐
採するのはウチだから、連名で山が
ある市町村に届出するんだな。う
ん、書かなきゃいけないのは、森林
の場所、伐採や造林の計画か…。い
や待てよ、伐採を始める30日前まで
の届出って、いつなんだ？これから
提出して大丈夫なのか？わからない
ことばかりで何も書けないぞ…社長！」

くつづく

ちよつと気になる木の話

48

東北の可能性

― 広葉樹資源の状況 ―

広葉樹資源蓄積の全国状況を見ると、2位岩手県、3位福島県、5位秋田県、10位青森県、13位宮城県となっている。素材生産量でも、全国で岩手県2位、福島県3位、秋田県4位、青森県8位、宮城県9位となっている。全体をみれば、全国上位10県のうち、半分が東北である。しかし、蓄積に対する伐採量は、対素材生産量が0.2%であることから1/500であり、成長量を見れば、現在の伐採量なら今後500年は伐採できることになる。また、岩手県を除いては13齢級以上の高齢級が多いことが特徴である。齢級配置で12齢級以下と13齢級以上が均衡している岩手県では、東北の他の県と比較して、木炭生産がいまだに健在であることが影響していると考えられる。

間があるかも知れない。自然保護上伐採できず保護林に指定されている広葉樹林ももちろんあるが、それ以外の里山の広葉樹資源が膨大にある。では、何故前述したような齢級配置の状況なのかである。まずは、旧薪炭林が、薪と炭の需要減少で放置されたことが原因にあげられる。エネルギー革命後、昭和40年を変わりとすると、既に60年が経過している。60年放置されれば、うん、確かに13齢級になってしまう。その他にも、製紙工場の広葉樹パルプ用の自給率は一桁であるし、一世を風靡した原木シイタケも生産量を減少させている。伐つても売れないのかなあと思ってしまう。しかし、今や海外の広葉樹の供給もタイトとなり、ロシア、北米も厳しい状況にある。時代は国産材回帰である。現在の国内の広葉樹の需要は、これまで輸入されてきた地域と同じ樹種がある東北に活躍の場が用意され、圧倒的に優位となっている。

広葉樹素材生産量上位10県の森林資源の状況

(単位：千m3)

都道府県	素材生産量		蓄積		対素材生産量	齢級別蓄積	
	令和元年度	順位	計	~12		13~	
北海道	568	1/47	384,134	0.1%	42,950	341,185	
岩手	281	2/47	90,280	0.3%	40,751	49,529	
福島	113	3/47	64,003	0.2%	22,084	41,919	
秋田	107	5/47	54,907	0.2%	15,293	39,614	
広島	90	17/47	25,204	0.4%	9,871	15,333	
鹿児島	86	9/47	44,645	0.2%	24,953	19,691	
島根	85	7/47	47,484	0.2%	23,324	24,160	
青森	68	10/47	44,501	0.2%	9,899	34,600	
宮城	57	13/47	28,150	0.2%	9,691	18,456	
宮崎	48	12/47	43,268	0.1%	25,106	18,158	

※蓄積量については5年毎の集計のため、上段が平成29年、下段が平成19年の数値である。

出典：林野庁「森林資源の現況」、農林水産省「木材統計」

では、何故伐採量が増加しないかである。それは、かつて広葉樹大径材を伐採していた業者が、ほぼ全て針葉樹生産に移行し、現在は広葉樹伐採を得意としていないし、やりたらないことにある。改めて、広葉樹に対応した機械化に取り組む必要がある。

出材されている気もするが、これは針葉樹伐採時に、侵入木や隣接地の残存木を伐採したものが多くということだろう。いずれにせよ、広葉樹の供給増に向けては、必要とされる広葉樹の品質や長・径級、単価の情報を供給側にキチンと伝えることが最大の鍵である。

令和2年6月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,414	93.2	60.4	5,636	88.2	29.7	11,050	90.6	39.6
カラマツ	4,270	83.9	99.1	264	117.4	132.1	4,534	85.3	100.6
アカマツ	3,512	97.2	96.6	1,863	82.7	152.9	5,375	91.6	110.7
その他	0	*	*	565	79.4	94.4	565	79.4	94.4
合計	13,196	90.9	78.0	8,329	86.9	39.7	21,525	89.3	56.8

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,413	88.0	132.3
カラマツ	2,614	83.6	91.8
アカマツ	782	27.7	64.5
その他	101	259.6	171.7
合計	8,909	73.4	108.5

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	18,604	20,414	39,018	17,301
カラマツ	14,488	928	15,416	8,494
アカマツ	9,489	6,232	15,721	5,346
その他	0	1,810	1,810	147
合計	42,581	29,384	71,965	31,288
目標達成率 (%)	18.9	13.4	16.2	24.1
計画量	225,000	220,000	445,000	130,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和2年6月の需給動向】

- 新型コロナの影響で6月の販売量は更に減少し用材のトータルでは前年比43%減少。
- スギの納入制限が厳しく樹種を変更し対応しているが他の樹種についても制限が強まった。
- 7月以降も受入制限の状況は変化なく、厳しい状況は当面続くと予測される。

耳からウロコ

沢と谷は違う？

ー内と別は？ー

東北の山の中の地図を見ると川の上流は〇〇沢だらけである。沢水は美味しいし、山菜の沢ミズ(赤ミズともいう)もまた美味しい。地名にも青森の鱒ヶ沢、岩手の水沢・沢内、秋田の湯沢、山形の米沢とふんだんに沢の字が使われている。しかし西日本では、山の中にも地名にも沢は見つからない。西日本は谷だという。谷って沢に比べて何となく狭く急なイメージであるが、実は同じ意味だという。インターネットで検索すると、沢は縄文文化、谷は弥生文化の流れであり、その境目は、富山と長野の境の北アルプスだという。でも北アルプスには〇〇沢と〇〇谷が混在しているのではないかと疑問を持つが、富山県人が長野県内で命名すると〇〇谷、長野県人が命名すると〇〇沢になるという。ふ〜んである。

もう一つ、〇〇内のように内を使った地名が東北には多い。秋田の内陸部には、米内沢、笑内、比立内、松木内、山内等の地名が見られる。この内とは、アイヌ語の沢の意味である。ということは、米内沢とは、沢が2文字使われていることから、米沢と一緒にやない…。アイヌ語といえは北海道だが、北海道にも歌志内、黒松内、中札内と内の字がつく地名が多く存在する。また、川を意味するアイヌ語を漢字で表すと、別だという。地名にも紋別、士別、初山別、愛別と数多くある。もちろん、滝川、砂川、旭川、深川といった日本語の川の地名もある。こうして考えると、川や沢に関する地名は異常に多い。東日本は、やはり水の流れる川や沢との関係が深く、山と水が暮らしの基本で自慢なのだと考えられる。

そういえば、昔、名の無い沢にネーミングライツをかけて収入を確保しようとしたが、実現しなかった。沢に自分の子供の名前をつけたい。ウケる？